

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	18
施設名	葛飾区宝保育園
施設所在地	葛飾区宝町1-12-10
法人名	葛飾区

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な自然

<テーマを設定した理由>

子ども達は日頃の保育で異年齢児と関わり合いながら自然に触れることを楽しんでいます。近くには親水公園があり季節ごとの自然に関心を持ったり、園庭の花壇には草花や野菜があり、そこをすみかとする様々な昆虫を夢中で探す姿が多いので身近な自然をテーマにしました。

## 2. 活動スケジュール

令和7年5月：テーマを決定

令和7年6月：必需品等実施準備

令和7年6月～令和8年3月：実施

令和8年3月：振り返り

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

環境設定として、昆虫を観察するための昆虫ケースや虫眼鏡、観察ルーペ、観察器や調べるための図鑑、生き物写真絵本を用意。

表現活動としてフープやマットレス、巧技台を準備。制作活動として紙類を準備。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

今年度1～5歳児クラスの子どもたちが夢中になっている虫探しや育てた野菜、草花を通して「みてみて」「なんだろう」「もっと知りたい」という思いを汲み取っていきました。子ども目の輝きやつぶやきをしっかり受け止め、子どもの視点から「どうしてかな」と共に考えていきました。保育士が子どもの疑問や知りたいことをすぐに答えてしまうのではなく、参考になるような図鑑や、手に取りたくなる絵本を並べておくことで友達と見比べている様子がありました。

また、実際に飼う経験をする事でより身近に感じたり、新しいことを発見したり、それを活かした制作や表現遊びを楽しんでいました。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

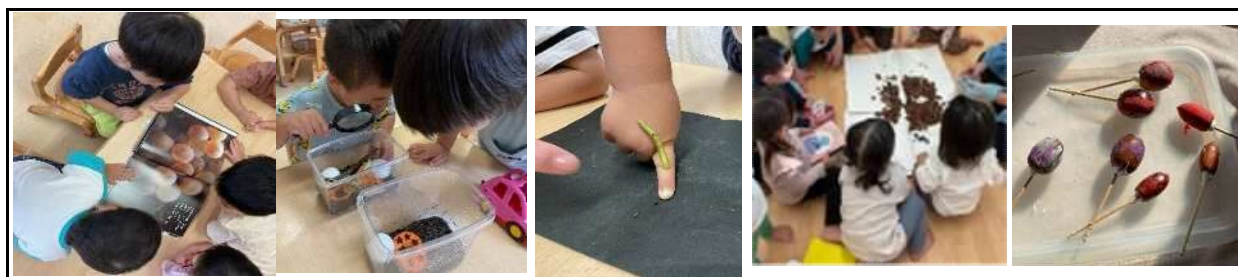
○5歳児が2歳児に「何探してるの?」と聞いてあげ、虫が居そうな所に誘ったり、一緒に探してあげたり「葉っぱとか石いれるといいよ」と飼育のアドバイスをするなど年下の友達を思いやる触れ合いがありました。

○様々な昆虫の触覚にそっと触れ、引っ込んだ瞬間の驚きと嬉しそうな表情が、不思議さとともにわくわくした気持ちに繋がっていました。

その姿を見た友達が「こわい?」と聞きつつも触ってみたい好奇心と、ドキドキした思いが伝わってくる関わりがありました。

○「この虫、ほら絵本にいる」と青虫やせみの抜け殻を大きな写真絵本と照らし合わせながら子ども自身で確かめていました。「どの木にいたの?」と投げかけることで、その後も探究心が続いていました。

○実際に昆虫を飼うことで名前を付けることや「赤ちゃんちっちゃい」「かなへび、水足りなくて死んじゃったかな」など誕生と死にも直面することがありました。子ども達が世話をしたからこそ、感じ取った経験でした。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

昆虫をきっかけに身近な自然をテーマにしましたが、興味がない子どものことも気かけながらの実践でした。実際に行うと2ヶ月過ぎた頃には、友達の楽しそうな姿を見て虫眼鏡で覗き始め、関心を持つ姿がありました。飼育を続けることの意味を改めて感じさせられました。身近な自然物を見たまま、感じたままを絵や制作・表現遊びとして楽しむことや「今度はこうしてみよう」と幼児クラスの子ども達は考えを深めるきっかけにもなっていました。日頃の保育の中で、テーマを決め環境設定などを意識することは、子ども達の関心・探求心に影響を与えることをより感じるとともに、保育士も子ども達と一緒に心踊る思いで実践ができました。

子ども達は冬の間も期待しながら虫探しを続けており、発見した時には春の訪れでした。